

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 群馬県藤岡市立藤岡第一小学校（※正式名称を記載）

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒375-0024

群馬県藤岡市藤岡1848番地2

E-mail daiichi-es@fujioka-school.gunma.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子311名 女子307名 合計618名

幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「豊かな心、高い知性、たくましい気力・体力を身につけ、郷土を愛する子ども」を目指す子ども像（連携型小中一貫校）として、ESDを普遍的汎用的な教育目標と捉え、ESDの実践を通して、他者とつながり、他者と学び合う力の育成を目標とした。

具体的には、「地域の人に学ぶ」、「地域の人とふれ合う」、を柱に、①地元の地域行事への参画に係わる活動、②地元の世界遺産に係わる教育、③地元の伝統的工芸品に係わる学習、④地元の学習支援ボランティアに係わる学習を行った。

### ① 地元の地域行事への参画に係わる活動 ～地域の人とふれ合う～

児童が地域に愛着をもち、地域の役に立ててよかったと思える体験をさせるため、地元の公民館が主催する夏の納涼祭や秋のこども祭りに向けて希望者を募り、企画段階から当日の運営まで担えることに取り組む活動を奨励した。これまで、祭りに参加する児童が少なかったが、「盛り上げ隊」のスタッフ児童以外にも大勢参加した。主催者も活気が出たことを大変喜んでくれた。

## ② 地元の世界遺産に係わる教育 ～「高山社学」に学ぶ～

本市には世界文化遺産「富岡製糸場と絹遺産群」の1資産である「高山社」がある。3年生では理科「こん虫」の学習と関連させた総合的な学習「カイコのふしぎを見つけよう」があり、4年生の社会科では養蚕の飼育法を開発させた高山長五郎の学習「高山社学」がある。また、道徳でも努力と強い意志を「りっぱなまゆをつくりたい～養蚕に一生をかけた高山長五郎～」の学習がある。こうした一連の学習を通して、地元の先人の遺業や郷土の産業について理解を深め、愛着や誇らしさを育む。

## ③ 地元の伝統的工芸品に係わる学習 ～地域の人に学ぶ～

本市では古代に埴輪が焼かれ、それを受け継いで瓦産業が発展してきた。3年生の社会科では本市の工業の具体的事例の一つとして瓦を取り上げ、また、4年生の社会科でも伝統的工芸品として鬼瓦を学習している。その関連として総合的な学習「鬼瓦を作ろう」で、鬼師と呼ばれる鬼瓦作りを代々営んでいる工芸師を迎えて、その指南の下、鬼瓦を作ってきた伝統がある。市の各所に鬼瓦をモチーフにしたオブジェ等があるが、4年生で作った手作りの鬼瓦が多くの家庭の玄関などに飾られている。

## ④ 地元の学習支援ボランティアに係わる学習 ～地域の人に学ぶ～

本校では多くの学習支援ボランティアが児童の学習を効率的に進めるのに大いに貢献している。例えば、低学年の生活科の学習における校外活動の見守りや栽培活動に関わる準備等である。ここでは、5年生の家庭科でミシンの学習を取り上げる。ミシンは児童にとって関心が高いが、製作上のトラブルが生じやすく、その点で担任以外のボランティアが入ることで学習がスムーズに進む。今年度は5年生だけでも延べ20時間に延べ50人のボランティアが参加した。児童は何度も来校する方たちと大いに絆を深めていた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし。
-------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクール及びESDの考え方を踏まえて、従来行っていた活動をESDの観点からとらえ直し、各教科・特活・総合的な学習の時間等において実践を行った。

指導方法の工夫や改善の面で、問題解決型の学習過程を通して学習内容の意義に気づかせたり、探求的な学習態度を育成したりすることができた。また、教科横断的な学習によって、物事を総合的にとらえるなど幅のある学習ができたと考えられる。今後もESDとしてより有意義な学習につなげられるよう指導方法の工夫改善に努めたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

毎月実施する次月の教育課程の内容について運営委員会で協議検討をしている。特に、学習の質を高めたり教師の負担を軽減したりするためにもPDCAサイクルを生かして継続的発展的に取り組める体制や環境をつくっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

まず、学期ごとに児童対象のアンケートを実施している。また、年間2回保護者を対象とするアンケートを実施している。さらに、年間6回学校運営協議会の委員を対象に教育活動の質の向上のための意見を協議する場を設けている。アンケートの内容としては諸活動に対する意欲や取り組みの状況、活動目標への達成度・満足感、さらに活動を高める工夫や改善点などである。総じて、本校の児童・保護者・学校運営協議会の委員の回答は高い評価であり、教師の評価も同じ傾向を示している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校のホームページや保護者向け各種通信で活動成果を発信している段階である。

ユネスコスクールの主旨や意義などを地域や保護者、児童などにさらに啓発するとともに、発信により得られた効果を集約していくことに取り組んでいる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

本校は今年度からコミュニティスクールにも指定された。地域の公民館や婦人会、青年会議所などの各種団体、地元商店街と連携して、学校を核として地域が有しているコミュニティの力をさらに強化していく取り組みを始めている。学校と他の団体という単線的なつながりにとどまらず、学校を核としながらもネットワーク作りを進めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

今のところ、市内各校と情報交換などを行い、活動の状況等を共有したり取り組みのレベルを上げることにつなげたりしている。

将来的には国内外の姉妹都市(石川県羽咋市・カナダのレジヤイナ市)と交流がもてるようにしたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

地域や保護者と緊密な連携をして、ユネスコスクールとして特色を高めてきた。具体的には、児童にわかりやすい「ほほえみ運動」（本気で勉強、本気で運動、笑顔であいさつ、みんな仲良し）を活動目標として取り組んでいる。学校評価アンケートでも取り上げ、保護者や地域の協力をいただき、児童の学力や友だちを大切にしている心が育まれている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ① ユネスコスクール加盟校としての意義や活動内容等を新職員や児童、地域などに発信する。
- ② ユネスコスクールとして本校の活動のあり方・発信のしかた・評価のあり方などを検討する。
- ③ ユネスコスクールとしての活動を新しく創造する前に、これまでの取り組みの中にもユネスコスクールとしての活動に合致したものがたくさんあり、それらを認識していく。各学年等でユネスコスクールとして大切にしていきたい活動を選定し、有意義な学習を展開する。また、評価をして次の計画案につなげる。
- ④ 他校や先進校の取り組みについて積極的に情報収集していく。